

7 【おとひめ】

たびたび町に遊びに行く、村の若い者が、いくたびにやつれて帰ってくるという話を、母親からきいたことがありました。

「まちのどこに行くんじゃ」

ぼくはききました。

「乙姫（おとひめ）だよ」

とだけ、母親は答えました。

そのほかは、何もいわない。

乙姫とは、海にいる乙姫じゃなく、たぶん店の名前か、酒の相手をする女性の名前だろうと、おもっていました。

そのうち、その若い者は、黒髪が白髪になり、きれいな顔が、しみとしあわだらけの顔になった、とききました。

「うらしまたろう、みたいじゃのう」

とぼくがいうと、

「乙姫だからだよ」

とだけ、母親はいいました。

そのほかは、何もいわない。

こうなったら、懐爺にきくしかない。

懐爺は、昼寝のさいちゅうでした。

それでも祠の中に向かって、

「でてこいでてこい、かいじいよ」

と大声でわめくと、かったるそうにでてきます。

浦島太郎よりも、年寄りにみえました。

わけをいうと、懐爺は溜息（ためいき）まじりにこう話したのです。

「それは【おとひめ】にやられたのです。【おとひめ】にやられて白髪と皺顔くらいでは、まだ無事な方です。【おとひめ】は若い男の生き血を吸うおばけです。いま町では【おとひめ】が出没（しゅつぼつ）していて、純情な村の若い男が標的（ひょうてき）になりはじめていますよ。江戸時代には【むらさきおんな】という、狐が化けたおばけがいて、若い侍が何人も血を吸われて死にましたが、その【むらさきおんな】は、【おとひめ】の先祖（せんぞ）ですよ」

「まるで、きゅうけつきじやのう」

吸血鬼の漫画は、読んだことがありました。

でも吸血鬼は男で、若い女の生き血を吸う。

【おとひめ】は、吸血鬼の女形かとおもわれました。

「【きゅうけつき】にやられた女は【きゅうけつき】になってしまう、という説もありますが、【おとひめ】にやられた男は、【おとひめ】になるわけではありません。【おとひめ】は若い男の生き血を吸いつくすと、こんどは別の若い男を標的にするのです」

なるほど。

となると、【おとひめ】にやられた村の若い者は、血がうすくなっているのだから、輸血（ゆけつ）が必要なのかな。

そう懐爺にいうと、

「さすがは金ちゃん」

と、ほめられました。

「しかし残念ながら、輸血は町の病院でないとできません。ところが村の若い者を町に運んで輸血しても、また【おとひめ】にやられてしまいます」

「こりないのかのう」

「相手はおばけですから、口八丁手八丁（くちはっちょうてはっちょう）です。いくらこりていても、またやられるんです」

「ざんねんだのう」

「それに町の病院は、【おとひめ】の味方ですからね。生き血を吸わせて輸血でかせぐ、そのくりかえしという手口ですよ」

懐爺は、複雑な表情をしました。

さすがの懐爺でも、【おとひめ】には手をやいているらしい。

「せつないのう」

「【おとひめ】を退治（たいじ）する方法は、一つしかない。【おとひめ】が老婆になるのを待つしかないのです。いくら百戦錬磨（ひゃくせんれんま）の【おとひめ】でも、入れ歯ではうまく生き血を吸えませんが、ぼくはうなったものです。」

時間に解決させる、おばけ退治法もあるのか。

それでも数十年経って【おとひめ】を退治しても、また別の若い【お

とひめ】が、新しく登場しそうな予感があったけれども。